

おぎのまさみ 荻野正己議員

災害発生時、要介護者・障がい等のある人が直接福祉避難所に避難できるようにせよ



本市では、福祉避難所を利用される可能性の高い在宅の要配慮者は、要介護4以上の高齢者、身体障害者手帳1・2級、難病患者の方など約5,300人を想定しています。

要配慮者は、発災時にまず一般避難所へ避難してもらい、その後協定した福祉施設等の同意を得て開設される福祉避難所に移動することになっています。

荻野正己議員は、令和元年6月議会で、要配慮者が命の危険にさらされ、一刻を争う状況の中で命を守ることを最優先するならば、設備・体制が整った福祉避難所を自宅から直接行ける1次的な避難所として位置づけるべきだと要求してきました。

令和3年5月に国が「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」を改定した内容に触れて、荻野議員は、「福祉避難所への直接避難を促進し、要配慮者の支援強化のためには、市は、平時から福祉避難所を指定避難所として位置づけるべきではないかと求めました。

市長は、「発災時には各施設の災害対応が優先され、指定には施設管理者の同意などの条件に課題がある。現段階では指定避難所の指定は難しい。なお、一般の避難所内に要配慮者スペースを設置することになっている」と今回も消極的な態度でした。

かねだのぶすけ 金田靖典議員

2023年秋、「青谷上寺地遺跡史跡公園」に「展示ガイダンス棟」と「重要文化棟」がオープン



金田靖典議員は、発掘調査が続いている

「青谷上寺地遺跡」の本格的展示施設が、2023年秋にオープンすることから、鳥取市としての今後の取り組みについて質問しました。教育長は、「令和2年度から史跡公園南側の整備に着手し、令和5年の秋に先行して展示ガイダンス施設がオープン。その後北側の整備を行い、令和11年度には全体の整備を終え、グラウンドオープンを迎える計画である。あわせて今の展示館は閉鎖する」と答弁しました。

青谷上寺地遺跡発見から20年がたち、この間、地元では、これまで発見と同時に「青谷上寺地遺跡を学ぶ会」が発足し活動を開始。「学ぶ会」は、「友の会」結成や、小・中学生、青谷高校生と一緒に「古代米づくり」など遺跡に関する取り組みや、説明ボランティアの育成などにも取り組んできました。

金田議員は、「展示館」については、地元で活動を支えてきた「学ぶ会」等とよく協議し、今後の活動拠点として、生かすよう求めました。また、文化財の保存、整備について質すと、市長は、「青谷地域のみならず、西地域を中心とした鳥取市の歴史・文化振興や観光振興にとっても重要な資源として活用できるよう、取り組みを進めていきたい」と前向きに決意を語りました。

マイナバー利用拡大は、個人情報漏えいの懸念 砂丘西側整備の民間丸投げ、砂の美術館観覧料アップは問題!!

12月議会には一般会計補正予算など22議案が提案されました。共産党議員団は次の問題を指摘し、伊藤議員が4議案に反対の討論を行いました。

◇一般会計補正予算の「健康管理システム管理事業費」は、自らの検診結果等の医療・健康情報をマイナポータルで閲覧可能にし、市町村間での情報連携にも対応するためのシステム改修費用である。国は、マイナポータルを入りに個人情報を集積を進めようとしているが、利便性の高さはセキュリティの低さと表裏一体で、個人情報漏洩の懸念がぬぐえない。

◇サイクリングターミナル、柳茶屋キャンプ場、県施設のこどもの国キャンプ場をつなぐ管理道の測量及び設計費の「鳥取砂丘西側整備事業費」は、それら3施設を一体的に民間事業に移行することが前提である。加えて、民間事業者の安心感にもなる鳥取県との連携協約を、市は締結し事業を進めようとしているが、観光とは目的が違う社会教育施設（サイクリングターミナル）を組み込むべきではなく、認められない。

◇砂の美術館観覧料を値上げするための条例改正について。経年劣化等による施設の維持管理費や人件費、コロナ対策の経費の増加と感染防止対策による入館制限などを考慮した料金改定との理由であるが、5年間の指定管理期間の途中に、先行きがわからない入館者数を基にした改定であり、コロナ禍に便乗した値上げは市民の理解は得られない。

本会議では、いずれの議案も共産党だけが反対で、可決されました。

